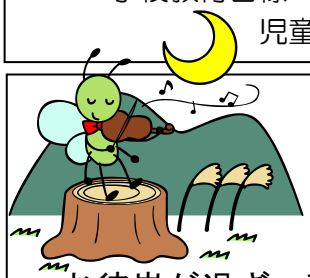
令和２年度深谷市立常盤小学校学校便り　　第７号（令和２年９月３０日発行）

笑顔あふれる常盤小学校

笑顔とあいさつ、歌声あふれるわが母校

学校教育目標　「かしこく　やさしく　たくましく」　～生きる力・夢見る力の育成～

児童数　男子３４０名　女子３３０名　計６７０名　℡　048-571-4923



深谷市立常盤小学校長　白井　裕一

自分を信じて大きな夢にチャレンジしよう

お彼岸が過ぎ、秋が急に深まりました。常盤小学校では新しい生活様式に則り、児童は、一層元気に学校生活に取り組んでいます。

カナダ人のテリー・フォックスさんのお話です。テリーさんが生まれたのは 1958 年で、スポーツが大好きな青年でした。将来は体育の先生を目指していたそうです。ところが、18 歳の時、「骨肉しゅ」という骨のがんで右足を太ももから失いました。入院中、自分と同じ病気で亡くなっていくたくさんの幼い子どもたちを目にしたそうです。そうして彼は、義足でカナダを走って横断し、その姿をカナダの人たちに見てもらい寄付を集めることを決め、回復を待って実行したのでした。

「希望のマラソン」と名付けられた活動は当初は注目されませんでした。また、国道を走ることを禁止され回り道をさせられたりしました。それでもテリーさんは困難を乗り越えて走り続け、国民からの関心も高まって、寄付が少しずつ増えていきました。しかし、走り続けてから 143 日目、5372 ㎞を走破したところでがんが肺に転移していることがわかりました。残念ながらテリーさんは 1981 年、「ぼくの魂は生き、夢に挑戦し続けるだろう。」という言葉を残し、22 歳の若さで亡くなりました。

その後、多くの人がテリーさんの思いを受け継ぎ、チャリティーのマラソン大会を開きました。このマラソン大会は今でもずっと続いていて、これまでにおよそ 640 億円の寄付が寄せられ、がんの研究資金として寄付されているそうです。テリーさんが生前最後に発した、「ぼくの魂は生き、夢に挑戦する」が、現実となって約 40 年間続いているのです。

児童の皆さん、だれでも一度きりの生きるチャンスが与えられています。このチャンスを生かすとともに自分を信じ、テリーさんのように、世の中のため人のためになるような大きなすばらしい夢をもとうではないですか。

～読書の秋～学校でも家でも「読書の習慣」を！！

○ 子どもの頃の読書は人生を豊かに！

読書に関する調査で、子どもの頃に読書活動が多かった大人ほど、「社会や人のためになる仕事をしたい。」「自分の能力を発揮するために学習したい。」と、回答する割合が高いとのことです。そうした思いは将来の自分の人生を豊かにするとともに、幸福感を味わえる資質となっていきます。

学校では、児童が平素から図書室を活用し朝の読書活動も行っています。どんな本を読んでいるのかお子様に尋ねてみてください。

読書習慣を家庭にも広めようというのが「家読（うちどく）」です。
家読の基本は「家族みんなで本を読もう！ 読んだ本で話そう！」です。
ご家庭でも、お子様と一緒に読書をして読書習慣を身に付けさせるとともに集中力や読解力、豊かな人間性を育んでくださるようお願いいたします。